

母子保健の向上を目的とする地域組織育成に関する研究（愛育班を中心に）

澤 田 啓 司（愛 育 病 院）
持 田 兆 子、植 竹 君 子
高 野 陽、原 摩 耶 子
中 原 清 隆

愛育班の歴史、現状、将来の問題点に関しては昭和49年度の研究報告、及び「地域活動をくみこんだ周産期医療—母親活動（愛育班等）を通しての母子保健活動と周産期医療—」周産期医学5巻11・12号1000～1006頁にのべた。

今年度は、愛育班の実態について、山梨県白根町愛育班、岡山県新見市愛育委員会の活動状況を調査し、また川越市（埼玉県）古谷愛育班の受持範囲内の乳児について、月1回の乳児健診をおこない、愛育病院の医師、川越市保健婦、愛育班員のチームによる健診を通じて愛育班活動の実際を知ることを研究目的とした。

山梨県白根町の愛育班活動の紹介は、前記周産期医療中の論文にのべた。

岡山県新見市愛育委員会においても、白根町愛育班の事業計画と同じように、重点目標（母子の健康を守る県民運動の推進、流産防止未熟児出生の防止のための婚前、母親学級のすすめ、母乳栄養の強調、訪問カードの利用）をきめ、衛生教育、母子保健（妊婦新生児訪問、母子・保育相談、乳幼児健診、3才児健診、乳幼児特別検診）、疾病予防（一般健康相談、結核循環器検診、婦人科検診、胃レントゲン検診、寄生虫検査、へき地巡回診療）、歯科衛生、老人検診、栄養改善、献血などの事業に協力することを昭和50年度の事業計画として、活動をおこなっている。

新見市愛育委員会は、愛育班長の下に班員3～5名をおき、班員一人あたり35～50世帯を訪問、健診などへの出席をすすめること、健診などの事業への協力をおこなっており、受持世帯の把握のためには、詳細な家族台帳を作成している。医師会との連絡は密で、開業小児科医、歯科医、病院医師との事業協力、教育などが円滑に行われている。

この地区では、住民の家庭状況、健康状態の把握がほぼ完全におこなわれていること、核家族に

対する育児知識の伝達、指導、時にはベビーシッター的役割さえも自発的に愛育班員によっておこなわれていることが印象的であった。かなり人の出入りの多い地域であるにもかかわらず愛育班活動には何ら支障がないようにみえた。

川越市愛育班も、運営がうまくおこなわれている愛育班の一つであるが、この地域では、愛育班活動は土日曜日をさけ、また活動の時間を日中に限っていることが一つの特徴としてあげられる。住民の状態の把握は、新見の場合と同様に完全に、乳児健診に出席できない小児についても、その小児がなぜ出席できなかったかが十分に把握されている。

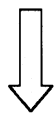
以上の実例を通じて愛育班活動の意義を再認識したような次第であるが、これを全国に敷衍するについての問題点をまとめてみたい。

(1) ボランティアの増加

共通して愛育班は、なまじ報酬をもらおうと活動が困難になると話してくれた。母子保健推進員として訪問活動をおこなう一方、愛育班としての活動をおこなっている新見市においては、その実態がよく了解できた。

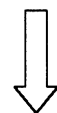
(2) 愛育班員と各家庭の間に、ある程度の知己と信頼関係がある必要がある。これが、都市における愛育班活動がひろがらない一理由と思われる。

(3) 愛育班員の経験的な知識に、科学的な裏付けをする必要がある。たとえば母乳運動の際に、母乳がよいからといっても生後10カ月以上の乳児に母乳をのませることをすすめることは好ましくない。班員に対する教育、研修の場はなるべく多くあってほしい。しかも、講義の形ではなく、小人数のグループによる討論形式がのぞましい。川越愛育班における、健診後の雑談に類する話し合いが、実は医学知識の伝達方法として極めて有効であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



愛育班の歴史, 現状, 将来の問題点に関しては昭和 49 年度の研究報告, 及び「地域活動をくみこんだ周産期医療－母親活動(愛育班等)を通しての母子保健活動と周産期医療－」周産期医学 5 巻 11・12 号 1000～1006 頁にのべた。

今年度は, 愛育班の実態について, 山梨県白根町愛育班, 岡山県新見市愛育委員会の活動状況を調査し, また川越市(埼玉県)古谷愛育班の受持範囲内の乳児について, 月 1 回の乳児健診をおこない, 愛育病院の医師, 川越市保健婦, 愛育班員のチームによる健診を通じて愛育班活動の実際を知ることが研究目的とした。